

早稲田大学 実体情報学博士プログラム
実体情報学コース 2016年9月進入 学生募集要項

実体情報学博士プログラム

プログラムコーディネーター 菅野 重樹

プログラム・サブコーディネーター 小林 哲則

本プログラムの目的

実体情報学博士プログラムでは、「情報系」と「機械系」の融合学としての新領域である「実体情報学 (Embodiment Informatics)」において、イノベーションを先導する「先見力」、「構想力」、「突破力」を兼備した「システム・ネクスト」リーダーを養成する。

国内外の第一級の教員を結集し、産学協働と海外大学連携により、本学が先導し、修士課程および博士後期課程合わせて5年一貫の世界に通用する質の保証された学位プログラムである。この学位取得のプログラムを「実体情報学コース」と呼ぶ。

本コースの特色

- 5年一貫制のカリキュラム
- 学問的刺激に満ちた主体的研鑽の場として、学生・教員・企業の教育・研究共有空間である「工房」を設置（ラムダックスビル3階）
- 学究に専念できるよう、奨励金をはじめ、充実した経済的サポートを提供
- 複数指導体制の教育、企業・海外連携をベースにしたコロキウム、スクーリング科目の設置によるイノベーション事例習得を通じて先見力を養成
- 異分野先端技術・問題解決パラダイムの講義や異分野交流および実習を通じて構想力を養成
- サマースクール、異分野インターン、長期海外研修、リーダーシップ論などを通して突破力を養成
- 明確な評価基準に基づく厳格な Qualifying Examination（以下 QE）、学位審査による成績評価を実施し、毎年約18名の「システム・ネクスト」リーダーを輩出
- 主指導教員と副指導教員、学外のプログラム教員からなるアドバイザーチームの指導により質を担保
- 本コース生の学年は L1、L2～L5 と表記。L1 が修士課程1年、L3 が博士後期課程1年に相当。
- 本コース生には本コース固有の学籍番号を付与

1. 出願資格

◇本学下記専攻に、2016年9月から修士課程1年に進学予定の者

- －基幹理工学研究科（数学応用数理専攻、機械科学専攻、情報理工・情報通信専攻、表現工学専攻、電子物理システム学専攻）
- －創造理工学研究科（総合機械工学専攻、経営システム工学専攻）
- －先進理工学研究科（物理学及応用物理学専攻、生命理工学専攻）
- －環境・エネルギー研究科（環境・エネルギー専攻）
- －情報生産システム研究科 以下 IPS と表記（情報生産システム工学専攻）

※本コースへの進入は原則修士1年（本コース学年表記L1）からだが、他大学修士課程出身者や社会人経験者などを含め、状況によってはL1以外の学年からの進入を認める場合もある。上記対象者以外で出願を検討する者は、事前に必ず末尾記載の本プログラム事務局まで相談のこと。

2. 募集人員 若干名

3. 学生説明会

2016年6月8日(水) 12:15~12:50 (終了予定) 於・63号館2階 03会議室
※北九州キャンパスは中継を実施 (於・コンピューター実習室2 N159室)

4. 出願期間 2016年6月20日(月) ~ 6月30日(木) 17時必着

5. 出願書類 (志願票)

出願書類一式は出願希望者にのみメール添付で配付する。出願希望者は本プログラム事務局までメールにて連絡すること。その際、件名に「**実体情報学コース出願書類希望**」と入れること。

なお、志願票には2016年9月から指導を受ける**指導教員の押印が必要**となるため、出願に際しては事前に指導教員に相談し、承認を得ること。

※付番した志願票を配付するため、所属ゼミ内等で志願票データを転送・共有しないこと。

- …全出願者共通、○…該当者のみ提出
- 2016年度早稲田大学実体情報学博士プログラム志願票<指定書式>
- 卒業論文概要書<指定書式>
- 他大学出身者、社会人経験者：成績証明書 (出願時点での最新情報が反映されたもの)

6. 提出方法

西早稲田キャンパス：市販の封筒 (角型2号:A4サイズ) に出願書類を封入し、本プログラム事務局 (51号館1階08A室内) へ持参。

北九州キャンパス (IPS)：市販の封筒 (角型2号:A4サイズ) に出願書類を封入し、IPS事務所へ持参。

7. 選抜方法・選抜スケジュール

選抜は次のスケジュールに従い、出願書類および面接試験を総合的に判定して行う。過去に TOEIC、TOEFL、英検、TEP-TEST 等の英語力検定試験を受験したことのある者はスコアおよび合格級を志願票に記載すること (スコア票等の添付は不要)。

面接内容・時間等：今までの研究内容、志願動機、今後 (本コース進入後) 取り組みたい研究内容、将来のビジョンについてのプレゼンテーション (10分) と質疑応答。実体情報学に関連する基礎知識についての技術面接。

キーワード：ネットワーク、プログラミング、力学、メカトロニクスなど

面接時間は質疑応答を含め一人当たり40分~60分程度を予定。

一次書類審査結果通知：2016年7月11日(月)

二次面接試験：2016年7月23日(土)、7月24日(日)

(上記日程のいずれか。スケジュール詳細は一次通過者へ後日連絡。)

選抜結果通知：2016年7月27日(水)

※一次書類審査、二次面接試験の可否結果は、本プログラム事務局より志願票に記載された E メールアドレスに通知する。

プログラム参加誓約書提出：2016年7月29日(金) 17時まで

奨励金支給等に関するヒアリング：2016年8月24日(水)~9月6日(火)の平日9時~17時

※1人当たり30~60分程度。ヒアリング日程については相談可。

8. コース履修期間

コース履修生の履修期間は2016年9月から博士後期課程修了時までとする。

ただし、修士1年から修士2年への進級時、博士後期課程1年から博士後期課程2年への進級時、博士論文審査時には、QEを実施し、コース内の進級等について審査する。

9. 奨励金

本コース履修生には最大で月額 20 万円（年額換算 240 万円※）の奨励金が支給される（支給は奨励金選考委員会での承認後となる。また、現時点では奨励金の支給は本プログラムが終了する 2020 年 3 月までとなる）。

なお、**奨励金を受給した場合は、日本学生支援機構奨学金等の受給や、TA、RA、アルバイト活動ができなくなる**ので留意すること（現時点では、早稲田大学が独自で支給している学内奨学金は重複して受給可能としている。詳細は本プログラム事務局まで問い合わせること）。

※奨励金の支給金額についてはあくまで今年度の参考実績額。来年度以降は変更の可能性もあり。

10. コース履修手続

コース履修手続に関しては、選抜合格者に別途本プログラム事務局より連絡する。

11. その他注意事項等

- ・ 志願票作成の際は、不備のないよう本プログラム事務局より配付される**志願票等提出書類記入要領を熟読**のこと。
- ・ 一度提出した出願書類の変更は認めない。
- ・ 一度提出した出願書類の返還は行わない。
- ・ 出願時に収集した個人情報（住所・氏名・生年月日等）については試験実施、合格者発表、履修手続きおよびこれに付随する業務のためのみに使用する。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正使用等がないよう、必要かつ適切な管理を行う。また上記業務の全部又は一部を委託する場合がある。その場合は、委託先に対し契約等により、必要かつ適切な管理を義務付ける。
- ・ 本コースに進入した場合においても、2016 年 9 月以降所属する研究科・専攻および研究指導に変更は生じない。
- ・ 5 年一貫制教育プログラムである本コースに進入した場合においても、博士後期課程に進学する際は、別途本学対象専攻の大学院入試を受験し、合格しなければならない。
- ・ 日本学術振興会特別研究員として採用されている期間は奨励金を受給することはできないが、海外研修等本コースの履修にあたって必要となる経費については本プログラムより支援される。
- ・ 本コースを修了できなかった場合、原則として受領した奨励金を全額返金しなければならない。

12. 問合せ先

実体情報学博士プログラム事務局

西早稲田キャンパス 51 号館 1 階 08A 室（教育研究プロジェクト支援室内）

支援室開室時間：平日 9:00-12:30、13:30-17:00

E メールアドレス：leading-sn-jimukyoku@list.waseda.jp

以上